



## 情報社会学部 情報社会学科 林 怡蓉(りん いよう) 教授

### インターネット時代だからこそ必要となる マスメディアの役割とは？

#### ■ インターネット時代の社会的コミュニケーションに資するメディアの規範理論。

インターネット、スマートフォンの急速な普及に伴い、FacebookやTwitterに代表されるSNS、ブログの利用が急増しています。インターネット制度の特徴によって、情報の入手方法はマスメディアの時代よりも、ダイレクトになる一方、断片的で知らずのうちに自らをある境域に隔離してしまいます。情報の多様化のあまり、場合によっては友人同士の会話でさえ成立が困難な状況に陥ります。一定の情報の共有を前提とする民主主義社会の根幹を揺さぶる事態のなか、林怡蓉教授は、多メディア、多情報に置かれている現代民主主義社会において、多様性を担保しつつ、共有知を形成し、社会的コミュニケーションに資するメディア制度（インターネットを含む）をいかに構築するか、実践と理論（メディアの規範理論、批判的社会理論、政治思想論）の往復を通して検討・研究しています。

#### ■ インターネット時代だからこそ考える、テレビ・新聞などのマスメディアの必要性。 自由なメディアに感じるが、無意識に情報のバイアスをかけてしまっている。

いつでもどこでも好きなように好きなだけ利用することができるインターネットには、多様な情報が飛び交っています。しかし、それを十分に使いこなすには、利用者の能動性、主体性が問われます。選んでいないつもりでも、SNSのフォローやネットの情報検索をすることで、無意識のうちに自分に親和性が高い情報を選んでしまい、興味がある情報にしか接しなくなってしまいます。自由な雰囲気が漂うインターネットですが、無自覚のうちに自らを見えない壁で囲い込んでしまうという「自己隔離」の状況を自ら作り上げます。

林教授は、興味があるものだけに関わっていくと大切なことを他の人に委ねてしまい重要な制度について考えることを放棄してしまう危険性があると言います。自分の好きなものとしか向き合えない、他の意見を持っている人の声が聞けない、知らないからこそ起こる思い込みは民主主義にとって大きな危機だと考えます。他方に、従来のマスメディアは、自分がさほど選択しなくても総合的な情報を伝え、様々な意見や情報が流れてきます。利用者自身がインターネットメディアとマスメディアの特性を理解して柔軟に使い分けていくことが重要です。インターネット時代だからこそ、マスメディアは社会的コミュニケーションを媒介するという、より積極的な役割を担う必要が今まで以上にありと考えています。

#### 林怡蓉教授 プロフィール

詳細はこちら⇒<https://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?resId=S000131>

台湾出身

経歴：2012年4月～本学 教授

論文：『パーソナル・マス・コミュニケーション時代のコミュニティ放送—現われの空間として—』（単著）

『日本のコミュニティ放送—理想と現実の間で—』松浦さと子編著（2017）・ほか

主な著書：『台湾社会における放送制度：デリベラティブ・デモクラシーとマスメディアの規範理論の新たな地平』（単著 2013）

所属学会：台湾社会学会、日本マス・コミュニケーション学会、日本社会学会、中華伝播学会

<本件に関するお問い合わせ先>

大阪経済大学 企画部広報課 高濱、東 Tel: 06-6328-2431 Mail: [kouhou@osaka-ue.ac.jp](mailto:kouhou@osaka-ue.ac.jp)

大阪経済大学 広報デスク (プランニング・ポート内) 福嶋、井上 Tel: 06-4391-7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>